

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 河野 太輔
所属 理学系研究科 生物科学専攻
学年 M2

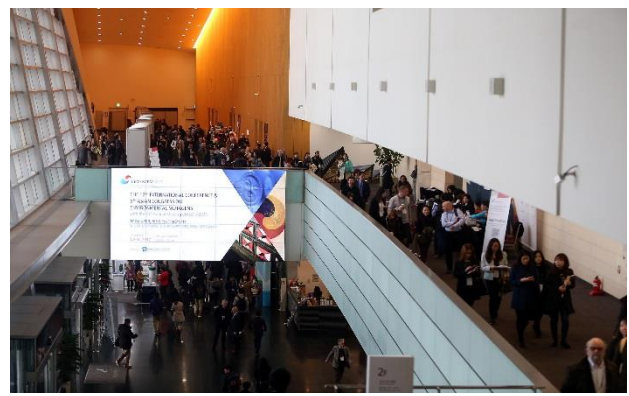
留学先 東国大学, Incheon, Korea

留学期間
November, 12th, 2017 – November, 18th, 2017

記入日 (Date) 11月24日

留学レポート Study Abroad Report

先日11月12日～11月18日、韓国で行われた国際環境変異原学会 (The 12th INTERNATIONAL CONFERENCE & 5th ASIAN CONGRESS ON ENVIRONMENTAL MUTAGENS)に参加し、口頭発表をおこないました。この学会は人間・生物・地球環境における突然変異原、とくに公衆の健康に重大な関係を有する変異原と、これに関連する基礎研究の推進ならびに関連情報技術の伝達を目的とし、4年に一度開催されます。前回大会はブラジル、そして今大会は韓国の松島国際都市 (インチョン)でおこなわれました。この地区は60階を超える超高層ビルが立ち並び「韓国のドバイ」とも呼ばれています。しかし、空き地や整備されていない歩道、入居者のいない高層マンションも多く、まだまだ開発途中の土地でした。



学会の初日は welcome reception から始まります。参加者は約700人で29カ国から集まった研究者や学生が、知り合いを見つけて久しぶりの再会を楽しんでいる様でした。私も国内の学会ですでに親交があった先生方が何人かいましたが、英語が飛び交う状況に戸惑い、教授の後ろでただ黙って立っただけでした。先生方が私のことを積極的に紹介してくださいましたが、全く緊張はほぐれず相づちしか打つことができませんでした。自分のコミュニケーション能力不足を痛感した初日です。私の口頭発表は4日目なので、それまではシンポジウムに参加したりインチョン市内を観光したりしました。発表当日、自分のセッションまでの時間は会場内の外れで原稿を反復したり質疑応答のシミュレーションをして過ごしました。約1ヶ月間この10分間のプレゼンテーションのために、実験データをまとめてスライドと原稿を準備して、教授に何度も指導・添削していただいたので自信をもって臨みました。始めは少し緊張していましたが、聴衆がうなずいている姿が目に入り、納得してもらえていると感じてからは落ち着いて発表することができました。少し残念なのは、私のセッションは時間が押ししており質疑応答の時間がカットされてしまいました。どのような質問がきて、自分がどう対応できるのかを試したかったので、そこだけが心残りです。ただ、座長や各国の教授・学生から "It was good presentation." "I was impressed."などと褒めていただいたことは自信になりました。そして、その日の晩は、gala dinner に参加しました。そこでご縁があり、次はインドで発表する機会得る事ができました。今回の口頭発表で達成感はあるのですが、もう一度、英語・プレゼン内容ともに磨きをかけてリベンジしたいと思います。



国際学会は16日で閉幕。Closing ceremonyにて、young scientist session で口頭発表に選ばれた23名とともに表彰 (young scientist award) していただきました。そして、翌日17日はソウル市内にメインキャンパスを構える東国大学の Seo 教授の研究室を訪問しました。そこでは学生同士お互いの研究テーマを発表しディスカッションをおこないました。いくつか質問を受けましたが、言いたいことを英語で伝えるのは難しかったです。私はまだ英語でディスカッションできるレベルではありませんでした。先生たちのフォローやフィードバックがあってこそ成り立っていました。ただ、事前に聞いてはいましたが、やはり韓国の学生の語学力は日本のそれより遥かに高かったです。今回、英語でプレゼンテーションおこない、ディスカッションを一度経験したことで場慣れができたことが一番の収穫だと感じています。また、その日の晩は、ラボのメンバー全員でご飯を食べに行き交流を深めました。ディスカッションも大切ですが、飲み会も大切ですね！初日の welcome reception では、“Yes”と“Thank you”しか言えなかった自分でしたが、この時には日韓の文化違いやガールフレンドのことで盛り上がり、そして将来のことも語っていました。来年、私は就職、彼らは大学院に進学、海外に留学、そして兵役義務のために2年間軍隊に行くなど進路はさまざまでした。東国大学の Seo 教授と私の教授はポストク時代からの付き合いでもう30年の仲だそうです。先生らだけで2軒目に行く姿をみて、私も彼らと一生の付き合いができれば最高だなと思いました。



話はガラッと変わりますが、夜に空き時間を見つけてブラジリアン柔術の出稽古に行ってきました。場所は滞在していたソウルの東大門から地下鉄で30分程のカンナム区にある Jhon Frank Brazirian jyu-jitsu Sinsa です。学部時代の柔道部で培った技術をベースに興味として最近始めたブラジリアン柔術は、全くのビギナーで尚且つ突然の訪問でしたが大変歓迎していただきました。学会参加だけでなくスポーツでも国際交流ができてよかったです。韓国では柔術が流行ってきているらしいです。今後、海外行くときにも、また道着をもっていき各国で柔道・柔術がしたいと思いました。



今回の学会参加は貴重な経験であることは間違いないのですが、これで終わりではなく、将来、海外を舞台に仕事をするモチベーションにもなり、その第一歩を踏み出せたと思います。最後になりましたが、このような貴重な経験を積めたのも八木教授・川西准教授をはじめ、研究室の皆様の手厚いサポートがあったおかげです。多くの人と出会い、最高に楽しい一週間でした。カムサハムニダ！